

『すべての人の微分積分学. 改訂版 (4刷)』正誤表

- p.11** 注意2の4行目. 「任意の個数」 → 「(n によらない) 任意の個数」
- p.35** 例2の直前に, 次の一行を挿入.
次に, f が多項式でない場合の例を挙げる.
- p.37** 一段落目と二段落目の間の空白を削除し, 詰める.
- p.322** 3.3(10)の解答. 「次数以下の多項式」 → 「次数以下の式」
- p.322** 3.3(10)の解答. 「0次の多項式」 → 「0次以下の式」
- p.322** 3.3(10)の解答. 「これは定数のことである. 定数は5とは限らない」 → 「これは5とは限らない」
- p.322** 3.3(11)の解答. 「(すなわち1次)以下の多項式」 → 「(すなわち1次)以下の式」(2か所)
- p.322** 3.3(12)の解答. 「多項式」 → 「式」(4か所)
- p.305** 1行目「定理25.2により分母と分子を微分して」 → 「定理25.2の結論の右辺が $\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{1}{e^x} = 0$ と収束するので」
- p.305** 例題25.2(1) 解答の2行目「ロピタルの定理により, 分母と分子を微分すると」 → 「ロピタルの定理の結論の右辺が $\lim_{x \rightarrow +0} \left(-\frac{\sin^2 x}{2x \cos x} \right) = 0$ と収束するので」
- p.305** 例題25.2(2) 解答の2行目「ロピタルの定理により, 分母と分子を微分すると」 → 「ロピタルの定理の結論の右辺が $\lim_{x \rightarrow +0} (-2\sqrt{x}) = 0$ と収束するので」
- p.389** 25.2(4) 解答の1行目. 末尾に以下の文を加筆.
「 $\frac{1}{\log y} = \frac{\sin x}{\log x}$ にロピタルの定理を適用すると, 定理の結論の右辺が $\lim_{x \rightarrow +0} x \cos x = 0$ と収束するので, $\lim_{x \rightarrow +0} \frac{1}{\log y} = 0$. また, $0 < x < 1$ のとき $\log y < 0$ であるから, $\lim_{x \rightarrow +0} \log y = -\infty$.」

p.389 25.2(4) 解答の2行目を削除.

p.389 25.2(6) 解答の1行目「であるから」→「であり, ロピタルの定理の結論の右辺が $\lim_{x \rightarrow 1} \frac{\frac{1}{x}}{-1} = -1$ と収束するので」

p.394 7行目. 積分内「 $\frac{1}{1+x^3}$ 」→「 $\frac{3}{1+x^3}$ 」